
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.48

2009.10.15 (木)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 ムラサキハナギンチャク *Cerianthus filiformis*

ムラサキハナギンチャクは、サンゴと同じ刺胞動物門に属する。イソギンチャクと比較的近縁のハナギンチャク類の一種で、千葉県以南の比較的浅い砂や泥の海底に棲管を作り、海中に花を拡げるように触手を広げて、海水中のプランクトンや懸濁している有機物を採って餌としている。触手は紫色をしているものが多いが、変異は大きく、この写真のよう



に白一色の場合もしばしば見られる。触手に触ると全体がすぼまり、体を縮めて棲管の中に引きこもる。棲管にはしばしばホウキムシが数個体共生しており、ムラサキハナギンチャクの周りに小さな濃い色の花を広げている。

(山口県上関町長島田ノ浦にて 向井 宏撮影)

目次 「今月の海の生き物」 ムラサキハナギンチャク

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 連載エッセイ（14）

「自分さがしの自然観察—私たちはなぜ生きている」 横濱康継

6. 事務局便り
7. 編集後記
8. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●クジラ肉横領の闇を明らかに 証拠開示をもとめて最高裁に

調査捕鯨から帰った乗組員によるクジラ肉の横領を現場を摘発して告発した環境保護団体グリーンピース・ジャパン職員の佐藤潤一さんと鈴木徹さんが逮捕された事件の裁判で、弁護団は調査捕鯨をやる中で、どのように船員たちによってクジラ肉の横領が行われたかの証拠を開示するよう要求していた。しかし、有罪とした青森地裁に続き、仙台高裁も証拠を開示する必要を認めないとする決定を行った。これは被告たちの摘発行為を裁くのに、乗組員によるクジラ肉の横領は関係ないとする判断と思われ、高裁も彼らを有罪にする可能性が高いと思われる。弁護団は、証拠の開示を求めて最高裁へ特別抗告を行った。

被告たちの行為によって調査捕鯨の不正が明らかになるようとしているが、司法も権力による不正の隠蔽に加担しようとしているようだ。

【近畿】

●養殖業者が TBT を不正使用

三重県尾鷲市のハマチ養殖業者が、有機スズ系化合物「トリブチルスズ（TBT）」を養殖いけすに使用していたことが明らかになった。TBT は内分泌かく乱物質（いわゆる環境ホルモン）として、1990年に製造が禁止されたもので、まもなく使用も禁止された。しかし、すでに所持しているものは処分の対象とならなかったため、それまでに購入していた養殖業者などはそのまま保持している場合が多い。そのため、こっそり使っている場合もあったのではないかと見られている。今回はその一例で、処分に困った業者がこっそり使用したのが発見された。

三重県では、この発覚により、県漁連や県海水養魚協議会と共同で県内すべての養殖業者を対象にTBTの残留調査を始めた。約230の業者から聞き取りを行い、抜き取りでいけすから魚を採取して残留化合物を検査する。

この問題は全国に波及する見通しである。漁業者は環境ホルモンの問題の重要性を良く認識していなかったようだが、製造と使用を禁止しながら処分を義務化しなかった行政のやり方も批判されるべきである。使用を禁止されたので、全部海に投げ捨てたという業者の話さえ聞いたことがある。

●白浜海岸にオウムガイが14年ぶり漂着

和歌山県白浜町の北浜海岸に、熱帯性のオウムガイの殻が漂着した。京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信准教授によると、白浜町には過去もっとも古い記録で1928年からの漂着の記録があるという。その後、10年に1回程度の頻度でオウムガイの殻が流れ着いているが、もっとも最近の記録は、1995年で、14年ぶりという。

オウムガイは原始的なイカ・タコ類（軟体動物）で、数億年前に出現して以来、ほとんどその姿を変えていない生きた化石と呼ばれる動物。過去の記録では10月頃の漂着が多いと久保田准教授は話している。

●補正予算見直し 港湾整備も執行停止

民主党政権の発足で、大型公共事業の見直しが進んでいるが、国土交通省は補正予算の見直しの中で、「産業港湾インフラの刷新事業」の860億円のうち、300億円の執行を停止すると発表した。この中には、関門航路のしゅんせつ費や「スーパー中樞港湾の機能強化」としての大阪港や神戸港の測量調査なども含まれている。

【中四国】

●上関原発建設埋め立て 中電が反対派を騙して着手

9月10日の予定から1カ月近く、祝島の住民らの体を張った反対で埋め立て工事用のブイを運び出すことができなかった中国電力は、台風が上陸する前日の10月7日、予定していたブイとは別に2基のブイを別の港から運び出し、現場の田ノ浦の海に設置し、工事着手を宣言した。

この日も平生町の田名埠頭のブイの前に阻止線を張って工事の着手を阻止しようとした祝島の漁民やカヌーイストたちに、中国電力は台風に備えて本日は工事を中止すると宣言、台船を引き上げさせた。それをみて反対派の船も祝島へ引き上げたが、その時にはすでに別の港から中電のブイを積んだ台船が現場で設置作業をしていたのだった。

埠頭での阻止行動の裏をかくような中国電力のやり方に反対派の住民らは怒りを強めている。「上関原発を建てさせない祝島島民の会」の山戸貞夫代表は「今回の阻止行動では、県外からも多くの支援があり、祝島が孤立していないことを（中電らに）示すことができ

た。今後もあらゆる手段を使って阻止行動を続ける」と語っている。

上関原発に反対する市民グループ 3 団体が、中国電力の姑息な手段を使った埋め立て工事の着手に対して、広島市の中国電力本社前で抗議活動を行った。「原発はごめんだヒロシマ市民の会」の人たち 20 名が代表で抗議文を中電の担当者に渡した。抗議文には「手続きのみを優先した姑息な手段で工事を強行した」ことを批判している。

●「少々の放射能が漏れてもたいしたことない」中電社員が言明

上関原発のための埋め立て工事強行着工を受けて、中国電力本社の広報室に電話で抗議した住民に対して、中電広報の O 氏が「核実験でいっぱい放射能が出されたことがあるじゃないですか。原発から少々放射能が漏れてもたいしたことじゃない」という発言をしたという。中国電力がこのような考え方で原発を建設しようとしているとすれば、これは非常に問題が大きい。放射能が漏れたら、瀬戸内海はほぼ全域が放射能汚染海域となり、その影響は一時的なものではなくなる。漁業は壊滅し、日本人の食糧供給にもきわめて重大な影響を及ぼすだけではない。瀬戸内海の生物相全体が重大な危機に瀕するだろう。中国電力という公共性の高い企業がこのような発言をするようなら、存在そのものを認められなくなるだろう。

●小学生などが宍道湖でヨシ再生に協力

島根県宍道湖の水質浄化のためにとして、国土交通省出雲河川事務所や NPO 斐伊川くらぶなどが行っている「宍道湖ヨシ再生プロジェクト」に、松江市、出雲市、斐川町などの小学生約 900 人が参加し、宍道湖の湖岸でヨシの苗を植える行事を行った。ヨシの植栽には、ポットに植えた苗を砂浜に掘った穴の中に据え付けるというやり方で行っている。これまで合計 18,000 本のヨシを植えてきたという。ヨシが湖岸から消えたのは、コンクリートによる護岸整備が最大の原因。国土交通省は原因を取り除く努力をしているのだろうか。それをしないでヨシを植えるのは、何のためのヨシ再生なのだろうか。

●鞆の浦埋め立て差し止め判決 市長は反発 市民は控訴断念を要望

鞆の浦の埋め立て架橋計画に対して、地裁による景観の価値評価による埋め立て差し止め判決が出されたが、事業を推進している羽田福山市長は、判決に「納得できない」と批判している。判決が下水道整備で推進工法の検討などが不十分だとした点を、「推進工法ができるのかという検証もいっさい無い」と批判し、今後も架橋計画を前提に総合的な振興策の「まちづくり整備方針」を進めていくと述べた。

一方、「鞆の世界遺産実現と活力あるまちづくりをめざす住民の会」は、差し止め判決を受け入れ、控訴を断念するように広島県に申し入れた。対応した広島県の万徳土木課長は、「判決は承服しがたい」と述べた。広島県は控訴期限の 15 日に控訴手続きを取ることを決めた。高裁が景観の価値を認めた広島地裁の画期的な判決を維持できるかどうか、司法の

良識が問われている。

●漁獲を増やすために幼稚園児がキジハタ稚魚を放流

山口県長門市油谷の久津漁港で、幼稚園児らがキジハタの稚魚 500 匹を放流した。山口県水産研究センター外海研究部の事業として行われた。キジハタは価格の高い高級魚で、水産業の振興に重要として稚魚の放流事業が数年前から行われている。最近漁獲されるキジハタの 65%が放流された魚という。これは稚魚の放流によって減少した天然のキジハタを補填していると見るべきなのか、それとも放流したキジハタが天然魚を駆逐した結果と見るべきなのだろうか。その答えは誰も知らない。

●中海の護岸整備が遅れる？

島根県松江市の中心部を流れる大橋川は、宍道湖と中海の間をつなぐ川で、比較的自然が残されている。ここを拡幅して宍道湖と中海の水の交換を良くしようという土木工事が計画されている。この事業について、同意を求められた鳥取県が中海整備として中海の護岸工事を実施することを条件にしているが、この鳥取県米子市の要望に対して国からの回答が遅れている。

政権交代の前に境港市が自公政権に提出した要望に対しては回答があったが、政権交代後の要望に対しては国が慎重な姿勢を見せており、工事が行われるかどうか不明確になりつつある。それによって大橋川の拡幅工事も見通しがやや不透明となったようだ。

●香川県では TBT の使用・所持はなし

三重県尾鷲市のハマチ養殖漁場で、国が使用も製造も禁止しているはずのトリブチルスズ (TBT) が養殖施設に使われていた問題で、水産庁の指示で各地で TBT の貯蔵や使用が行われていないかの調査が行われているが、香川県でも県鹹水養殖漁協が全組合員に対して養殖網や船底に使用している防汚剤の実態を調査するように要請した。その結果、香川県では使用や所持はなかったと発表した。

【九州】

●有明・八代海の赤潮 珪藻の減少が原因？

有明海と八代海では今年の夏にも赤潮が発生し、ブリなどの養殖魚が大量死した。熊本県水産研究センターで調べた結果で珪藻の細胞数が例年よりかなり少なかったことが原因で、有害プランクトンの増殖が起こったと結論した。春先の少雨で珪藻が増えることができず、そのため競合する有害プランクトンが増えたと見ている。

今年の赤潮の原因となったのは、「シャトネラ」という有害プランクトン。7月上旬に大発生が起こり、全体に広がった。漁業被害は8億7千万と推定されている。

●イルカが川を泳ぐ 甲突川

鹿児島市の甲突川の河口をイルカが5頭、川を遡るのが発見された。目撃されたのは天保山シーサイドブリッジの上流200m付近。イルカが川を泳ぐのは非常に珍しいという。最近各地で岸や川に迷い込むクジラやアザラシやラッコなどが話題を呼んでいるが、この原因はよく分かっていない。方向を見誤る生理的な異常が起きているのではという説もあるが、本当のことはよく分からない。そうではないと言える自信も研究者には無くなってきたことも事実。このイルカはやがて姿が見えなくなったので、無事に海に帰ったのだらうと思われている。

●佐賀県知事が諫早開門調査を求め長崎県知事に会談を要望

長崎県諫早市の諫早干拓事業をめぐる、潮受け堤防排水門の開門をして中長期的調査をするように求めた佐賀地裁判決が出されたが、農水省と長崎県知事はあくまで開門調査を拒み続けている。

一方、開門調査を希望している古川康佐賀県知事は、定例記者会見で「長崎県の金子原二郎知事に会って具体的な意見交換をしたい」と述べ、トップ会談で事態を打開したいという思いを述べた。また古川知事は「漁業者などは一日も早い有明海の再生を期待しており、新政権に決断を求めたい」と述べ、民主党政権下における開門調査の実現に期待を表明した。佐賀県選出の原口一博総務大臣と共同歩調を取り、赤松農水大臣に決断を迫っていく考えを示した。金子長崎県知事は「地元では、会談に応じるだけでも不快感をもっている」と否定的な考えを示した。

旧社会党出身の赤松農水大臣の決断を望みたいところだが、某週刊誌によるともっとも官僚の言いなりになりやすい大臣として赤松農水大臣の名前が挙がっており、決断できない大臣となりそうな気配でもある。

【沖縄】

●名護・大浦湾のアオサンゴに白化が広がる

普天間基地の代替え基地建設が予定され、環境アセス調査が進められている大浦湾で、巨大なアオサンゴ群集が見つまっているが、そのアオサンゴに白化現象が広がり始めた。白化を最初に確認したのは沖縄リーフチェック研究会のメンバー。10日から緊急の潜水調査を行った日本自然保護協会は、「白化現象が確認された。何らかの環境変化によるストレスが白化現象を起こしている可能性が考えられる」としている。アオサンゴは比較的高温に強く、白化現象は知られていなかった。今回の白化はかなり大きいストレスがあったのではないかと思われるが、その内容は不明である。アセス調査がストレスを与えたという説もある。

●普天間移設で「サンゴ悪影響」…知事意見の沖合移動理由に

防衛省が行った辺野古の米軍基地建設の環境アセス準備書に対する沖縄県の知事意見で、仲井真弘多知事は代替え基地の位置を沖合へ移動するよう求める意見を提出した。その理由の一つとして、「サンゴ礁への悪影響」をあげた。同知事は以前からキャンプシュワブ沖合への移設を主張してきたが、それに今度はサンゴへの悪影響という理由を始めて加えた。防衛省では、この知事意見を「検討に値する」という姿勢を見せている。

この環境アセスでは、騒音やサンゴ・藻場の消失などへの影響がそれほど大きくないと分析。仲井真知事は国とアメリカ軍が合意したキャンプシュワブでのV字型滑走路を沖合に移すことを条件に移設を認める立場を表明してきた。環境アセス審査の結果は、このアセスそのものに手続き上も、内容的にも大きな欠陥があることを指摘した答申だったが、知事はあくまで沖合移設にこだわり、審査委員会の結論の中でサンゴへの影響の部分だけをつまみ食いして、自らの主張を通そうとしているように見える。

しかし、沖合に数十mずらして救われるサンゴ群集はいったいどのくらいなのだろうか。サンゴに悪影響があるというなら、辺野古沖に基地を作ること自身を止めない限り悪影響は無くならない。知事が沖縄県の海砂採取組合の要職にあることと、知事の主張との間にどのような関係があるのか、注意してみたい。

2. 現在の活動と予定

●砂浜海岸生物調査って、どうするの？

砂浜海岸生物調査の研修会を行います

海の生き物を守る会では、昨年からNPO法人OWSと共同で全国の砂浜海岸生物調査を実施してきました。しかし、関心はあっても実際にやろうとすると同定の問題ややり方の問題で分からないことが多く、なかなか実施に踏み切れないという声を聞きます。そこで、実際に砂浜海岸生物調査のやり方について研修会を11月28日(土)に関東地方の三浦半島で開催することにしました。砂浜海岸生物調査に関心があり、実際自分でもやってみたいと考えている方は、ぜひ研修会に参加してください。研修会の詳細は、ホームページや次号以降の「うみひろも」に掲載予定です。

多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。ご協力いただける方には、方法と調査報告用紙をメールでお送りいたします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。

これまでに会員や非会員のみなさまから寄せられた調査票は38枚、全国22ヶ所の砂浜で調査が行われました。全国の砂浜調査にするには、まだまだ多くの海岸で調査が必要です。最低各県で2-3ヶ所の砂浜を調査し、全国で100ヶ所以上を目指しています。ぜひともみなさまのご協力をお願いします。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【東北】

●広瀬隆講演会（プルサーマル）

広瀬隆さんに聞くメディアも書かないプルサーマルの話

～メッセージ～ 「プルサーマルは若者の未来を奪う」

高濃度の原爆材料プルトニウムを世界で類のないほど大量に使うプルサーマル計画は、暴走事故で東北全土を一瞬で地獄に変える無謀な人体実験だ。住民は、一体どこへ逃げろというのか。しかも運転後には、500年も地元で保管しなければならない超危険な使用済みMOX燃料が女川に残され、宮城県と東北地方が「放射能の墓場」とみなされるようになる。こんなことを強行すれば、若者がいなくなる。商店街、地場産業をあげて、一刻も早く計画を白紙撤回させよう。

広瀬隆

とき：2009年11月1日（日）開場 13:00 講演 13:30 ～ 16:00

ところ：仙台弁護士会館 宮城県仙台市青葉区一番町 2丁目9番18号

資料代：500円

主催：プルサーマル公開討論会を実現させる会

問い合わせ先：Tel 022-373-7000 e-mail haq07314@nifty.ne.jp

【関東】

●LIVE! 憲法ミュージカル 2009

「ムツゴロウ ラプソディ」

ギロチン水門が断ち切ったのは 海 そして人の命

脚本・演出 田中 暢 振付・演出 石橋寿恵子

時とところ：

11月7日（土）昭島市民会館（昭島市）開場 15:00 開演 16:00

11月15日（日）パルテノン多摩（多摩市）開場 15:00 開演 16:00

11月21日（土）飯能市市民会館（飯能市）開場 17:00 開演 18:00

11月23日（祝）武蔵野市民文化会館（武蔵野市）開場 15:00 開演 16:00

11月29日（日）立川市市民会館（立川市）【昼公演】開場 14:00 開演 15:00

【夜公演】開場 17:30 開演 18:30

一般：2,500円（当日2,800円） 高大学生：2,000円（当日2,200円） 中学生以下・障害者：1,500円（当日1,500円） 1歳以上の保育有り（事前申し込み有料500円）
問い合わせ先：042-512-8077 FAX:042-512-8078 e-mail: kp-musical@ksh.biglobe.ne.jp

【近畿】

●KODOMOバイオダイバシティ<串本沿岸海域>湿地交流

1. 趣旨・目的

「KODOMOバイオダイバシティ（生物多様性条約と生きものを守る子どもたちの運動）」（地球環境基金助成）は、湿地の生きものを守ること（生物の多様性を守ること）をテーマにした学習・交流活動です。この活動は、2010年10月に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（CBD_COP10）に向け、子どもたちとともに生物多様性条約と湿地のバイオダイバシティ（生物多様性）の重要性を考え、活動していこうというもので、2009年度から2年計画でおこなわれています。

すでに開催した、久米島（沖縄県／4月）、クッチャロ湖（北海道／7月）、漫湖（沖縄県／9月）につづき、2009年11月14～15日、「KODOMOバイオダイバシティ<串本沿岸海域>」として下記のとおり開催します。

「串本沿岸海域」は、本州という高緯度に位置しながら、黒潮の強い影響下にあり、サンゴをはじめとする熱帯性の生きものがたくさん生息しています。世界最北となるサンゴ群落も多数分布していて、希少な価値をもつ重要な湿地です。湿地の生きものに興味がある子どもたち（小学生から高校生まで）の積極的な参加をお待ちしています。

2. 概要

期 日：2009年11月14日（土）～15日（日）＊1泊2日

開催地：串本沿岸海域（和歌山県串本町） 会 場：串本海中公園センター（予定）

主 催：串本町、串本海中公園 KODOMOバイオダイバシティ実行委員会（ラムサールセンター、滋賀県、積水化学工業） 助 成：地球環境基金

プログラム（予定）： ※都合により、内容は変更される場合もあります。

11月14日（土）

11:00 集合（串本海中公園センター）・受付開始

11:30 開会式 あいさつ KODOMOバイダバ実行委員会 串本町・和歌山県
オリエンテーション：「串本の海について」 串本海中公園センター

12:30 フィールド学習：串本沿岸海域の宝（ステキなもの）探し
串本沿岸海域のシュノーケリング体験と、水族館、海中観光体験

17:30 KODOMO交流会（バーベキュー）

19:00 KODOMO生きもの会議その1

お話：サンゴを食害する動物駆除実行委員会
グループ・ディスカッション

※宿泊は、串本ダイビングパーク（串本海中公園内）を予定しています。

11月15日（日）

8:30 KODOMO生きもの会議その2（串本海中公園センター） 各湿地の活動発表

全体会議：串本沿岸海域のステキランキング ポスター・キャッチコピーづくり

11:30 閉会式

12:00 解散

3. 募集対象、人数 :湿地で活動している、活動したい、湿地に関心のある小学生（高学年）～高校生。定員40人（和歌山県内の湿地で活動している子ども30人程度、全国の湿地で活動している子どもたち10人程度を予定）

湿地の生きものが好き、興味がある、もっと知ってみたい、各地で活動する子どもたちと交流したい、そんな子どもたちの参加を待っています。

4. 費用

(1)子どもたち ①参加費3000円（11月14日の宿泊、プログラム中の食費、配布資料、移動バス代、KODOMOメッセージTシャツ代を含む）②現地までの往復交通費（前・後泊が必要な場合は、その宿泊費とも）は原則自己負担です。

(2)引率の方 ①参加費6000円（11月14日の宿泊、プログラム中の食費、配付資料、移動バス代を含む）②現地までの往復交通費（前・後泊が必要な場合は、その宿泊費とも）は原則自己負担です。

5. 参加の条件

(1)自然環境とボランティア活動に関心をもち、積極的に交流でき、行動できる子どもたち。

(2)身近にある湿地の情報をみんなに伝えたい、全国の湿地のこと（とくに湿地の生きもの）を知りたい、学びたいと思っている子どもたち。(3)イベント終了後、1ヵ月以内に簡単なレポートを提出すること。(4)原則として現地集合、現地解散。(5)イベント開催中の怪我や事故などについては、原則として自己管理、自己責任です。主催者では責任を負いかねますのでご了承ください。(6)イベント開催中は、主催者側で簡易保険（イベント保険等）に加入する予定ですが、手厚い補償を求める方は、ご自身で旅行傷害保険などに加入するなどの対策をお願いします。(7)保護者の了解を得てください。(8)エコクラブやNGOなどの団体に所属して活動している場合は、団体の了解も得てください。

6. 応募方法 :参加希望者は、参加応募用紙と参加したい理由（100字程度）を記入し、下記まで送ってください。提出する用紙は、はっきりと読みやすい字で記入してください。

7. 応募締切 : 2009年 10月31日（土）

<参加申し込み> ・串本町役場商工観光課 担当：松原智昭 〒649-4192 和歌山県東牟婁郡
串本町串本 1800 TEL : 0735-62-0555 FAX : 0735-62-4977 E-mail :
tomoaki.matsubara@town.kushimoto.wakayama.jp ・ラムサールセンター 担当：小澤章子・
市川智子 〒146-0084 東京都大田区南久が原2-10-3 TEL :03-3758-7926 FAX :03-3758-7927
E-mail : ramsarcj.nakamura@nifty.com

●【緊急報告】DAYS JAPAN 編集長広河隆一さんの報告

「祝島—上関原発建設を拒否する人々」

山口県の南東に位置する、室津半島と長島と祝島、八島からなる上関町では、田ノ浦湾を埋め立て原子力発電所を二基建設する計画があり、それに対して祝島の人たちは30年近く反対し、昔からの漁業や農業を営み続けてきました。

今月、だまし討ち的に中国電力の埋め立て工事が強行され、現地では緊張が走っています。自然を守るために1000回以上のデモを続けてきた島民を孤立させないために、私たちに何ができるか、現地スライドによる報告を交えて、考えたいと思います。彼らのたたかいで守ろうとしているものは、私たちの守らなければならないものでもあるはずです。

広河隆一さん（フォトジャーナリスト・DAYS JAPAN 編集長）

【主催】 楽天堂・豆料理クラブ HP <http://www.rakutendo.com>

【日時】 2009年10月24日（土）19:00～20:30（18:30開場）

【場所】 京都YWCAホール（80名）京都市上京区室町水上ル近衛町44

【会費】 700円

【行き方】 <http://kyoto.ywca.or.jp/access/01.html>

■ 地下鉄丸太町駅2番出口より北へ5分 2つ目の信号を左折

■ 地下鉄今出川駅6番出口より南へ徒歩10分

【お申し込み方法】 席確保のため、事前に予約くださいますよう、お願いいたします。

楽天堂 Mail exchange@rakutendo.com

〒602-8354 京都市上京区下立売通七本松西入西東町364-14

TEL (075)811-4890 FAX 020-4665-6740 or (075)811-4890

【中四国】

●「原発いらん！ in 上関集会」10/25

9月10日から中国電力による上関原発予定地の埋め立て工事用ブイ（灯浮標）の運搬を強行したため、地元住民や支援者の阻止行動が行われてきました。10月7日には、ブイ2基を設置し、埋め立て工事に着手したと発表しましたが、これは形式的なものであり、海面の埋め立て作業はこれからです。10月2日には「上関原発中止」を求める61万筆以上の署名を政府に提出し、追及しました。「埋め立て阻止—建設中止」の闘いを支援するため、緊迫する上関原発の予定地で10月25日に建設反対集会が開かれます。多くの方の参加・賛同をお願いします。

日時：10月25日（日）13:30～15:30

場所：山口県熊毛郡上関町室津・「埋立地」（室津港横）

山陽本線「柳井駅」より上関行きバス（45分）で「室津」下車

主催：原発に反対する上関町民の会、上関原発を建てさせない祝島島民の会、原発いら

ん！山口ネットワーク、原水爆禁止山口県民会議

内容：主催者あいさつ、地元闘争報告、講演（フォトジャーナリスト・広河隆一）集会宣言採択、デモ行進など

問い合わせ先：自治労山口県本部（電 083-922-7592）■上関原発の最新情報はこちらから
<http://new-k.livedoor.biz/>

●上関原発工事阻止行動への緊急カンパをおねがいします

上関原発の着港を阻止するため、現地では祝島島民などが会場での阻止行動を行っています。阻止行動に参加する祝島の漁師は生活の糧である漁を止めて燃料代を使つての行動であり、阻止行動が長期化する中、経済的にも非常に厳しい状況が続いています。そのため、緊急カンパが呼び掛けられています。是非多くの方からのカンパ支援をお願いします。
実施時期：10月末まで 集約方法：期間中に次の口座へ送金願います。
振込口座：中国労働金庫 山口支店 普通 5436509番「原水禁山口県民会議 議長 岡本博之」

●全国アマモサミット2009年

全国のアマモ再生活動の取り組みと、連携と協働で中海再生を探る

2009.11.6（金）講演・パネルディスカッション・ポスター発表

会場：米子コンベンションセンター小ホール 時間：10:00～17:30

11.7（土）現地見学会（移植事業・中海湖上観察）

会場：境港市 時間：9:00～14:00

主催：全国アマモサミット2009実行委員会

問い合わせ先：未来守りネットワーク TEL:0859-47-4330 FAX:0859-47-4331
npo-sakimori@ac.sub.jp

【沖縄】

●モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査交流会

日時：2009年11月15日（日）10:00～17:00

場所：沖縄県市町村会館4F会議室（那覇市旭町116-37）TEL：098-862-8181

内容：沖縄・南西諸島でシギ・チドリ類の調査を行っている人の報告を中心に話題提供を行って貰います。調査に参加していない人も自由に参加できます。

主催：沖縄野鳥の会、バードリサーチ、環境省

問い合わせ先：NPOバードリサーチ 守屋年史 moriya@bird-research.jp TEL：042-401-8661

現地見学（エクスカーション）

日時：2009年11月16日（月）8:30～12:00

場所：泡瀬干潟や沖縄県南部の調査サイトを見学

4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

● 齊藤武一『海の声を聞く』 七つ森書館 市民科学ブックス⑤ ¥2,000 円＋税 (2003)
25年間にわたって黙々と毎日一人で海の温度を測り続け、泊原子力発電所の温排水の影響を調べてきた一市民科学者のこれまでの道を書きつづった本です。アワビがいなくなり、スケソウダラの漁が減少している現在の原因を温排水に探し求めてきた苦闘の歴史。

5. 連載エッセイ(14)

自分さがしの自然観察—私たちはなぜ生きている?—
横濱康継(南三陸町自然環境活用センター長)

第四章 余生を生きる 帰りなんいざ

「帰りなんいざ。田園まさにあれなんとす。なんぞ帰らざる」と、まるで今日の日本に住む私達に呼びかけているように思えてしまうのだが、これは中国東晋時代の詩人陶淵明(三六九～四二七)の有名な「帰去来辞」の冒頭の部分である。今から一六〇〇年ほど昔の、それも中国に暮らしていた詩人の作なのに、今日の日本にピタリあてはまってしまうのは何とも不思議だが、これは古今東西を問わず、文明社会に共通することなのかもしれない。

陶淵明は、四一歳のとき生計のためにある県の県令(県知事)になったが、かたくるしい役所暮らしに耐えられず、在職わずか八〇日ほどで辞任して郷里に帰ったという。富貴を望まず、自然を楽しみながら田園生活を送り、天命を全うしよう、というその境地は、中国そして日本の知識人の中で理想とされてきたのだが、ほとんど全国民が富貴を求めた結果ふくらんだバブル経済が崩壊した今日の日本でこそ、忘れ去ってしまっていたこの境地を見つめ直す必要がある。

二〇〇三年は、東京の東北や上越地方への玄関口だった上野駅の開設一〇〇周年にあたる。そのための記念行事も行われるのだろうが、伊沢八郎の唱う「ああ上野駅」という曲の発表四〇周年にもあたるということで、その記念碑が駅前に建てられた。

「ああ上野駅」は、当時盛んだった集団就職のためにこの駅に着き都内で働くようにな

った若者の心情を歌ったものだが、中学や高校を卒業してすぐに故郷を遠く離れた大都会で働き始めた若者達にとっての、非常に心強い応援歌として長く唱い継がれてきたようである。

集団就職という形で地方から送り込まれた若者達は、金の卵と呼ばれ、経済の高度成長を支える強力な労働力となった。そしてまれには立身出世の夢が叶い故郷に錦を飾る人も出現したが、それほどでなくても、中小企業の経営者あるいはサラリーマンとして、安定した都会人としての生活を送るようになった人は多いだろう。しかし失政による日本経済の大混乱から、製造業は不振となり、多くの中小企業が廃業あるいは倒産に追い込まれ、サラリーマン達もリストラ旋風に吹き飛ばされつつある。

地方から上京して就職した人の多くは、マンションと呼ばれる集合住宅に住んでいるが、東京都内では、その二〇万戸近くが建て替えの必要な時期に達しており、そして一〇年後には、それが一〇〇万戸ほどになるという（二〇〇三年現在）。建て替えが必要になったマンションの住人達の間では、高額な費用の負担を強いられる建て替えの是非をめぐる争いが起きている。

安定した職業を得て、半永久的と信ずる住居に住み、あこがれの都会人としての生活を送り始めてから東の間に、失職したり、あるいはその予感に怯えたりしなければならなくなり、そして住居も半永久的とはほど遠い代物だった。日本経済の高度成長を支える戦力として呼び集められた金の卵達も、今や都会での居場所を失いつつあるのだが、一方彼等を送り出した地方では、後継者不足で休耕地が増え、漁村での廃業も目立つようになっていく。「田園まさにあれなんとす」なのである。

集団就職第一号の世代は六〇歳を超えているだろう。「ああ上野駅」の記念碑建立を伝えるテレビ番組に登場した町工場の社長さんも六〇代だったが、最近では受注量が激減して、赤字経営に陥っているという。テレビの画面に向かって私は、「帰りなんいざ」そして「なんぞ帰らざる」と呼びかけたくなった。この社長さんの郷里も、やはり「田園まさにあれなんとす」の状態になって久しいのではないだろうか。

平家物語は語る

不況のせい、テレビの画面にも、制作費のあまりかかりそうにない安易な番組が多く登場するようになった。そのほとんどが「バラエティー番組」とか称する代物で、芸もほとんど無さそうな「タレント」達が出任せを吐き合って、自分達も観客役の若い女性達も大口を開いて笑うのだが、何が可笑しいのか私にはさっぱりわからない。「タレント」達の笑いは貧しい演技の一部であるとしても、「観客」達の笑いは「条件反射」とでも理解するしかない。

大口を開いて笑っている彼女達は、平和日本の象徴とも言えそうだが、そんな「象徴」達はあらゆる所に見出せる。原宿や六本木といった「若者の街」にもあふれているし、夜の路上で騒音をまき散らしながら物狂いしている暴走族などは、「象徴」の極致と言えるだ

ろう。

平和の「象徴」達が国中にあふれていることは、我が国が平和である証拠として喜ぶべきことなのだろうが、平和が永遠に続く保証はないということも、歴史はあますところなく私達に教えてくれている。

「我が世の春」が永遠であると信じてでもいるかのように、多くの若者達は遊び呆けているのだが、そんな彼等を眺める私には、平家滅亡の前夜にも我が世の春を謳歌する「公達や姫君」達を見る平時忠の気持がわかるような気がする。平家一門の盛衰はあまりにも劇的なため、「平家物語」として語り継がれることになったが、吉川英治の「新平家物語」には、時忠の心情が平易な文体で切々と語られている。

源氏と共に平安貴族の番犬的存在だった平家が貴族社会を支配するまでに成り上がったのは、清盛の強力な武力と非凡な政治的才能によるのだが、清盛夫人の弟という立場にあった時忠の手腕も見逃せない。我が世の春を謳歌する一族の中にあっても、清盛に次ぐ長老としての時忠の目には、亡ぼしたはずの源氏の復活と胎頭が見えている。そして清盛亡きあとも、孫の世代にあたる公達や姫君達に対して、一族の危うさを必死に説き続けるのだが、若者達は一向に聴く耳を持たない。

平家物語の構図を現代にあてはめると、源氏の役まわりとして、まず国家財政の破綻や経済危機という国内問題が思い浮かぶが、これによって滅亡する平家役は日本という一国である。しかし人類全体も滅亡前夜の平家にあたるということを忘れてはならない。その源氏役は言うまでもなく「地球規模の環境破壊」である。つまり日本国を亡ぼす「源氏」のうしろには、余方もなく巨大で強力な「源氏」が控えていて、人類全体を亡ぼそうとしているのである。

人類全体の破局に比べれば、日本という一国の滅亡は、はるかに小さな問題と言えるが、日本に住む私達にとっても、それほど深刻なことにはならないだろう。六〇年ほど昔にも、私達の国だった大日本帝国が敗戦で亡びたが、それに代わって民主制の日本国が（本当に民主的か否かは別にして）誕生し、戦争で犠牲になった人達以外の国民は、餓えたりして亡くなった一部の人達を除いて、何とか命をつなぐことができた。

ただ敗戦という亡国に至るまでの間に、日本人だけでも三〇〇万以上という、あまりにも多くの命が犠牲になったことは、何ともやりきれないのだが、戦争の重大な責任者のうちのごく一部に過ぎないとしても、戦犯とされた人物達が処罰されたという事実は注目に値する。国家的財政破綻や経済危機による私達の国の亡国は間近なのだが、やはり亡国の責任者達は戦犯と同様に処罰されなければならない。

近未来に訪れる我が国の亡国によって、芸なしの「タレント」も条件反射役の女性達も出番を失うことになるだろう。そして我が世の春に終わりがあるなどと思ってもいない現代の「公達や姫君」達も、鋤を手にして休耕地などを再開拓しなければ餓死する、という時代の幕が開くことになる。

亡びるのは経済大国も名ばかりとなった日本国であり、その跡に農林水産国が新生する

という意味では、この亡国は望ましいのだが、やはり亡国の責任者達は処罰されなければならない。「痛みを分かち合おう」などと言われながら、一方的に痛みを押しつけ続けられた国民のために、そして経営不振などで自殺した人達のためにも、為政者の責任は厳しく問われなければならないのである。

今やその名も虚しくなった経済大国日本の息の根を止めることになる失政の責任は、真に民主的に政治家を選ぶということを怠ってきた国民の側にもある。その罰として国民は税制・年金法・健康保険法などの改悪あるいは倒産やリストラなどの痛みを受け続けているのだが、利益誘導や買収などで選挙の真の機能を麻痺させ、民主主義を有名無実化させてきた政治家とその協力者達を一掃することは、農林水産国新生に向けての必要条件となる。

農林水産という一次産業の上に高次の産業が積み重なった構図は、多層なほど近代的と考えられているようだが、製造業などを二次産業とすれば、その上に重なる三次産業以上のほとんどは、ヒトという動物特有の狡猾さが案出したものである。世界中の先進国にさきがけて、我が国の「多層構造」はすでに崩壊途上にある。その跡に誕生するはずの一次産業と必要最小限の二次産業からなる農林水産国は、はからずも、先進国を含むすべての国にとっての理想像となるだろう。なぜなら、地球上のすべての国が農林水産国にならないければ、地球環境悪化による人類の滅亡を回避することはできないからである。

未だに遊び呆けている我が国の「公達や姫君」達は、虚名と化した経済大国という看板を掲げた日本国の崩壊が始まっていることにも気づかず、まして世界の滅亡など全く予感していない。しかし不思議なことに、某超大国で平家一族さながらに我が世の春を謳歌している富裕階級は、地球環境悪化という巨大な「源氏」の存在を十分に承知していて、その襲来に備えているらしいのである。

某超大国は先進国中でCO₂排出量削減を拒否し続けてきた唯一の国なのだが、この国の支配層は、CO₂増加による地球温暖化を信じていないというわけではない。むしろ近未来に地球は灼熱地獄になることを承知しているばかりでなく、容認さえしているらしい。

彼等の多くが、石油産業あるいは兵器産業関連の富裕階級であるとするれば、石油の消費つまりCO₂の発生を一層増加させながら、殺戮と環境破壊を伴う戦争も激化させてゆかなければならない、という事情を抱えているのだろうが、地球が不毛の灼熱地獄になることを予想しながら、商売を一層繁盛させてゆこうという彼等の勇氣は、実はある「壮大な計画」によって支えられているようなのである。

テラフォーミング（大地創造とでも訳すべきか）という火星改造計画が某超大国ではかなり本気で考えられているという。我が国のテレビでも何度か紹介されたが、火星の極地にある極冠と呼ばれるドライアイスの巨大な塊に太陽光を集中させて気体のCO₂を発生させ、その温室効果によって地下の氷を融かして、火星を地球のような水の惑星に変える、というのがそのおもな内容だった。

水の惑星となった火星でヒトがどのようにして暮らせるのか私には理解できなかったが、

そこへ移住できるのは数十万人どまりということであった。つまり不毛の灼熱地獄と化した地球には六十億人以上が置き去りにされ、某超大国の支配層を中心とする数十万人の富裕階級だけが、火星という「新世界」へ脱出する、という将来計画が明らかになったのである。

なお、数十万人を地球の重力圏外に脱出させるための無数の宇宙ロケットがどれくらいの燃料を消費するかは見当もつかないが、その際に放出される想像を絶するほどの膨大なCO₂が、彼らの「最後屁」さながらに、六〇億人以上が残された地球の大気中への置きみやげになるのである。

数十万人という定員の中に、某超大国の富裕層に同調する少数の人物達を除く一般の日本人が入るはずはない。それにもかかわらず、この地球脱出計画を放映した日本のテレビ局の神経は理解できないのだが、コンピューターグラフィックスによって描かれた「SFドラマ」は、この人類の大冒険が成功するような印象を、見る者に与えそうだった。しかし私には、火星が水の惑星に変わり、そこに人が住めるようになるなど、とても信じられない。

おそらく、自分たちの商売を繁盛させ続け、その結果として不毛の灼熱地獄になった地球から逃げ出したい、と願う身勝手な豊裕層の願望に付け込んだ宇宙開発屋達が、不可能と承知しつつ売り込んだプランなのではないだろうか。

専門家の間でどのように評価されているかは不明だが、一般の人達は、公共放送によってSFもどきの画面を見せられただけでも、その可能性を信じてしまうだろう。そしてわけのわからない説明をされても、「優れた人間にしかわからない話だ」などと言われると、納得したふりをしてしまう知識人も多いのではないだろうか。まるで「裸の王様」の世界である。

また百歩ゆずって、火星が水の惑星になり、高度に管理された空間に人が住み始めたとしても、それらの「選民」がすべて一瞬にして死んでしまうという事故も起こり得る。地球上でも最新の技術によって高度に管理された都市ほど脆弱であることは、二〇〇三年八月のニューヨーク大停電によって思い知らされたばかりである。

火星が人為的に人の住める星に変えられたとしても、「人為」つまり最新鋭の技術による管理を絶え間なく続けていなければ、この星はもとの不毛な火星に戻ってしまうはずである。設備のわずかな故障や誤作動あるいは一瞬の操作ミスなどが起きたら、ニューヨーク大停電のように「トイレも使えない不便で不安な一夜を暗闇の中で過ごす」といった程度では済まないのである。最新鋭と称する技術などにいのちを預けるということが如何に危険かということは、最新鋭の「交通機関」であるスペースシャトルの事故率や事故における死亡率が他の交通機関より桁違いに高い、ということからも理解できるだろう。

平家の末路は哀れであっても、落人となって山奥で生き延びた人達は居るが、地球規模の環境悪化という「源氏」に敗れた人類には、落ち行く先は残されていない。某超大国の富裕階級は「源氏」に対してCO₂排出量削減という戦いを挑まずに、火星に自分達だけの

落人集落を作ろうとしているわけだが、この計画はコンピューターで描けるだけの「絵に画いた餅」にすぎない。

地球は使い捨てにすることなどできない。私達は今よりずっと控えめな生活をしなければ、地球環境悪化の勢いを止めることはできないはずである。それには東京や大阪のような過密都市から全住民が地方へ疎開しなければならない。二〇〇七年現在、我が国では、都市部に国民の約五割が住んでいるが、全国で消費されるエネルギーの約八割を都市部が占めているという。つまり一人あたりにすれば、都市部での生活は都市部以外の生活に比べて約四倍ものCO₂を発生させているという勘定になるのである。

また二〇〇三年七月に宮城県で起きた程度の直下型地震が東京で起きれば、一万人近くの死者が出ると言われているが、実際には、はるかに多くの人命が失われることになるだろう。しかし宮城県では、一日に震度六クラスの地震が三回発生したのに、死者はゼロだった。東京などの大都会は如何に不自然な存在であるかわかるだろう。

不自然な過密都市での生活には、膨大なエネルギーが無駄遣いされている。空気までが臭いヒートアイランドから全員脱出して一次産業に従事する、という選択肢しか私達には残されていない。遊び呆けている「公達や姫君」たちに源氏の脅威を訴え続けた平時忠のように、余生にある私たちは地球環境破壊の脅威を訴え続けなければならないのである。
(次号につづく)

6. 事務局便り：

- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひるも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会へのカンパをお寄せください。銀行口座は「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へ。

7. 編集後記

上関町田ノ浦の埋め立て工事が、漁業者ら反対派の裏をかくようなやり方で着手された。しかし、まだ工事はブイを設置しただけ。実際の埋め立てはまだ行われていない。埋め立てて、宝の海を失ってからでは、遅い。なんとか止めて欲しいとひたすら願う。折しも、現場近くの海域でカンムリウミスズメが漁網にかかって死んだ。絶滅に瀕しているカンムリウミスズメが田ノ浦の周辺でまだ生きていることを知らせているようだ。(宏)

8. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンでメールが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第48号 2009年10月15日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1 グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会

